

1. 御供田の苗

むかし、現在の東京競馬場北西の駐車場あたりに、神社にお供えするお米を作る御供田がありました。そこでは旧暦の5月6日に御田植祭がおこなわれていました。

その様子が天保7年(1836年)に刊行された『江戸名所図会』に紹介されています。



『江戸名所図会』 田んぼの脇には、白鷺と楓の若葉で飾られた傘鉾を持つ男の人と、太鼓を

鳴らす男の子がいます。田んぼの中では元気に相撲をしている男の子たちがいて、見物人もたくさん集まっています。

御供田に苗を1株でも植えれば、その年はまったく病気をせず健康でいられ、自分の家の農作物も豊作になると信じられていたので、人々は競って持ってきた苗を植えました。そして、田植えが終わると、大勢の男の子が裸になって、田んぼの中で相撲をとる習わしでした。

不思議なことに、次の朝、相撲で踏み荒らされた苗はまっすぐに起き上がったそうです。

そればかりではなく、人々が持ち寄ったさまざまな種類の苗(米苗、餅苗)を植えたは

すなのに、秋になるとみんないっせいに同じ稲穂いなほが出たそうです。

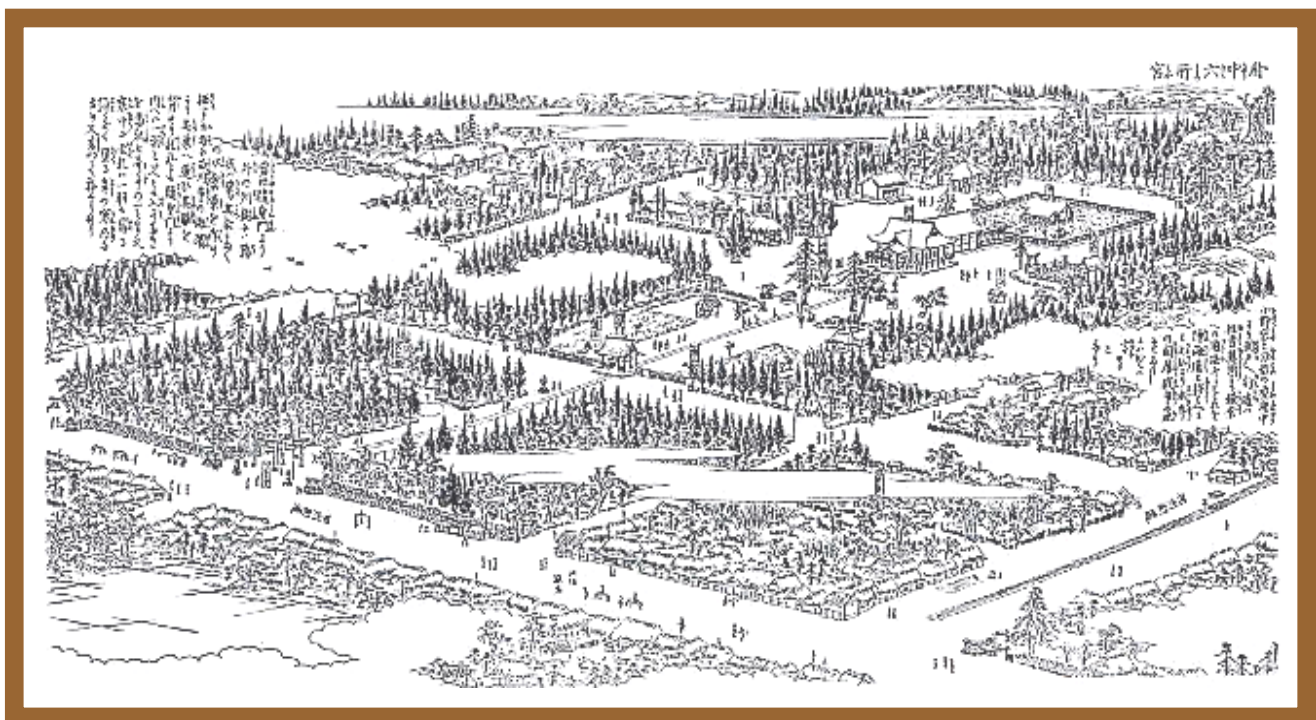
この御供田は、明治維新めいじいしんのとき、神社じんじやの境内以外けいだいいがいの土地とちとして政府せいふに上納じやうのうさせられました。それ以来、御田植祭いらいは行われていなかったのですが、1990年に時期じきと場所ばつかつを変え、復活ふっかつしました。農家のうかと農協のうきやう、地元じもとの子どもたちの協きやうりよく力つづで現在も続けられています。

2. 大杉おおすぎの根ね

むかし、神社じんじやには杉すぎの木はがたくさん生えていました。

♪大國魂おおくにたまの杉森すぎもりに、輝かがやき昇のぼる朝日あさひかげ・・・♪

ふちゅうだいいちしょうがっこう ぜんしん ぶんちゅうがっこう こうか うた ようす
府中第一小学校ふちゅうだいいちしょうがっこうの前身ぜんしんである府中中学校ぶんちゅうがっこうの校歌こうかで、「杉森すぎもり」と歌うたわれたほどです。その様子ようすは、
下の『江戸名所図会えどめいしょずえ』の中ちゆうにある神社じんじやの絵えを見てもわかります。



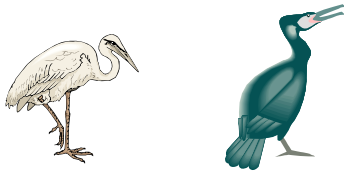
杉ねの木ちひやうは大きくなると、根でが地表すがたに出てきてそのゴツゴツとした姿すがたをみせます。しかし、
参道さんどう沿いそにあった杉おおくにたまの木かみさまは大國魂えんりよの神様さんどうに遠慮さんどうしたのか、根さんどうが参道さんどうまで出てくることはな
かったそうです。

げんざい かんきやうへんか えいきやう か
現在げんざいはいろいろな環境かんきやうへんか変化えいきやうの影響かで枯れてしまいました。



3. 境内の鳥類

むかし、神社の境内の森には鳥、鷺、鶇などたくさんの鳥がすんでいました。けれど、鳥たちは決して本殿などの建物に糞を落とすことはなかったと言われています。



4. 矢竹の根

神社の拝殿近くに竹が生え、石で囲われたところがあります。神社の言い伝えによると、むかし源頼朝が戦いに勝つことを祈って、拝殿の前に竹の矢を挿しました。竹の矢は根付いて、その後何百年も竹となって生い茂ったのですが、石囲いの外には一本も出ないということです。





5. 大銀杏のにな貝

神社本殿の南西側裏に 1000 年近くも生きて
いる銀杏の大木があります。むかし、この大銀杏
の根元には、にな貝*がすんでいました。この
にな貝を煮出して飲むとお母さんのおっばいの
出が良くなると言われていました。貝をとるた
めに多くの人が根元を掘ったためでしょうか。
木の成長は止まってしまいました。

*にな貝の「にな」とは 善貝のことを言います。大銀杏の木の根元にすんでいたのは木の幹や落ち葉の下、岩陰など、
風でも薄暗い場所で暮らすキセルガイ（カタツムリ的一种で陸にすむ貝）ではないかと思われます。

6. 境内に松の木なし



むかし、大國魂の神様が八幡様といっしょに府中に現れた時、泊るところを探しに行っ
た八幡様は、気に入った場所を見つけると、一人で住んでしまいました。今の八幡町です。

大國魂の神様は八幡様の帰りをずっと待ち続けることになってしまいました。大國魂の神
様は待ちくたびれて、

「まつのはつらい。まつはきれいじゃ」

とおっしゃって、その場所に住むことにしました。そこが現在の大國魂神社の場所です。

このことから大國魂の神様は「まつ」を嫌うようになったので、神社の境内には「松」
の木は一本もなく、植えても枯れてしまうということです。神社も松の木を使わずに建て
られました。神社ではもちろんお正月の飾りは竹飾りですし、府中では今でもお正月に竹
飾りをして、松飾りをしない家があります。

7. 縦の雫

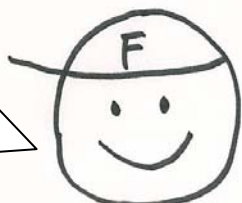
むかし、神社には大きな縦の木がありました。その縦の木は晴れた日でも雫が降ってくる
 ことがあったといひます。『大國魂神社略誌』には春夏秋冬の一年を通じて雫が落ちてき
 ていたと書かれています。この不思議な縦の木は今はなくなってしまいましたが、神社の
 中にある別の縦の木は府中の名木百選に選ばれています。

もっと知りたくなったら読む本のリスト

しよめい 書名	ちよしゃ 著者	しゅっぱんしゃ 出版社	しゅっぱんねん 出版年	本の背ラベル
府中の伝説をもとにした絵本				
まつはきらい	おざわとしお 小澤俊夫	府中市教育委員会	1986年	F38/オ
東京のさまざまな伝説が書かれている本				
東京の伝説	東京伝説の会	日本標準	1981年	F388/00/ト
大國魂神社の年間の行事について写真と文で紹介している本				
大國魂神社の歳時記	さくらののぶお 桜井信夫	ネット武蔵野	2002年	F17/サ
府中市のおいたちや地名の由来など、基本的なことが書かれている本				
府中の風土誌 第7版	府中市		1981年	F21/フ
その他				
府中史談 第22号	府中史談会		1996年	F213/10/フ
官幣大國魂神社略誌	大國魂神社		1934年	F175/10/カ
くらやみ祭り	さわたりもりふみ あやべよしお 猿渡盛文・綾部好男	みつむらきょういくと 光村教育図書	1998年	F386/10/サ
府中市郷土の森博物館ブックレット5 武蔵府中くらやみ祭り	ふちゅうしきょうと もりはくつかん 府中市郷土の森博物館		2004年	F386/10/ム
府中の口伝え集	府中市立郷土館	府中市教育委員会	1986年	F38/フ

大國魂神社ホームページ <http://www.ookunitamajinja.or.jp/>

さがしている本が
みつからないとき
は、としよかんの人
にきいてみよう。



「大國魂神社の七不思議」こども府中はかせ No.1 2011年4月発行
 府中市立図書館 編集・発行
<http://library.city.fuchu.tokyo.jp/>